

福島で学ぶことに
意義がある!



福島大学 農学群 食農学類 (仮称)

Faculty of Agricultural and Food Sciences

食品科学コース

作物・栽培学コース

農業経営学コース

生産環境学コース

2019年4月 [設置構想中]

内容は予定のものであり変更する場合があります。

入学定員
100名程度

地球レベルでの課題を抱える『福島』で
 実践的農学を学び食料・農業・農村問題へ
 主体的・創造的に対応する地域リーダーを育成

設置の必要性

国内問題

- 自由貿易協定 (FTA) の進展及び対応
- 担い手の減少や高齢化の進行
- 地球温暖化による、栽培適地の北上などにより、新たな栽培管理技術や適正のある作型が望まれる
- 外来種の定着や人為的環境かく乱による在来種や固有種の危機並びに生物多様性の減退

福島県の挑戦課題

- 原発事故により農地・森林が放射性物質に汚染され、作付制限・出荷制限、風評による買い控え等かつて経験したことのない深刻な問題が継続
- 担い手の減少や高齢化の進行、耕作放棄地の増加
- 農作物の収益性の低下

食の安全・安心

- 消費者の「食の安全・安心」や農作物の安定供給に対する期待の高まり
- 高品質の国内農産物・食品に対する海外需要の拡大にとって世界基準の農業認証（グローバルGAP）や衛生管理方法（HACCP）への対応が課題

食農学類に 求められること

- 農業の構造改革や農産物の高付加価値化を図る取組み
- 世界的な市場競争力強化に向けて活躍する担い手の育成
- 実践的な農学を修め、被災地の農業復興支援及び地域の農業・農村再生に取り組む人材の育成

福島県に 農学系学類を 設置する背景

- 面積：全国3位、農業就業人数：3位、水稲収穫量：5位、桃収穫量：2位など（2015年）
- 福島県の総農家数75,338戸（2015年） 1995年比37%減
- 65歳以上の農業就業人口率 65.2%（全国平均 65歳以上 63.5%）
- 農業就業人数20位までの都道府県で農学系学部がないのは、福島県と埼玉県



地域から期待されている人材養成

農学系人材養成機能整備に関する検討を行うにあたり、地域の高校、企業、団体、自治体にアンケート調査（2015年7・9月）を行いました。
地域から以下の三点について期待されています。

●「専門的な知識と技能」

専門性と実践力を兼ね備えた「農村再生」・「地域課題解決」を牽引する人材

●「食」と「農」、「地域」

農業生産から、食品加工・流通、そして地域の環境と暮らしの一体性を学ぶ「総合科学としての農学」

●「分野横断と学際」「技術開発と普及」

学際的な思考力と高いマネジメント能力で食料・農業・農村の現実課題に主体的に取り組める専門人の養成



食農学類の教育研究上の目的

●我が国の農学の現状

専門分野の細分化により、総合性、関連性の構築が困難となっています。

●福島の課題に挑戦するには

「放射能汚染」という未知の課題に直面する中で、農学の基礎分野である作物・栽培学、土壌学、農業経営等のフィールドを中心とした教育・研究と、課題解決型の実践教育をいくつかの専門分野にまたがりながら推進することが必要です。

●食農学類が目指すもの

世界史に残るであろう被災地を抱える「福島」で、実生活に役立たせることを目的とした農学を再構築することが、食農学類の目指す実践的農学です。

これまで、農業は生産を中心とした考え方がとられてきました。しかし、現在は生産、加工、流通、消費までをも包括した「フードシステム」としての視点が重要となっています。フードシステムの全体を農学の対象としてとらえ直し、応用科学の思想を取り入れ、新しいフードシステムのあり方を「ふくしまモデル」として追究します。

福島で学ぶことに意義が

食農学類が目指す社会貢献

食農学類における教育・研究

福島県全域を教育・研究フィールドとして地方自治体・農業関係機関と密接に連携し活動します

地域への貢献

地域を担う人材養成による社会貢献に加えて、農業生産・食品加工・地域資源利用等に関する革新的技術を開発し、新たな付加価値を創造して製品化・事業化・産業化に結び付けることにより、研究面での地域貢献します。

国内外への貢献

原発事故により、福島県内で一気に表面化した「食の安全・安心」「農作物の収益性の低下」「担い手の減少」などの課題は、今後、日本各地、様々な場面で表面化する課題です。原発事故によりマイナスからの出発となった福島の課題に科学的視点から挑戦し、新たな取組みを行い、そこで得られた成果を国内に還元することにより我が国の農業の発展に寄与することを目指します。また、今後、世界で類似の災害が発生した場合、食農学類の教育研究内容を、農業復興を支えるモデルとして掲示することができます。

養成する人材像

福島大学農学群食農学類では、福島県の農林水産業の復興・再生に向けて、学際的な思考力と高い実践力で食料・農業・農村問題へ主体的・創造的に対応できる、次のような人材を養成します。

- 1 先端的な農業生産技術を応用し、付加価値をつけて高度なマーケティングに挑戦することにより「もうかる農業」を実現できる人材
- 2 高度な食品加工技術や発酵・醸造技術を駆使して、地域の素材を生かした6次化により「新たな食産業」を生み出していける人材
- 3 原発事故にともなう農地・森林・水資源の汚染の中で、測量・土木技術を活用して環境回復を進め、地域再生に貢献していける人材
- 4 農業の現場を知り、環境マネジメントから地域計画まで幅広く修得し、総合力を発揮して自治体や農業団体を牽引できる人材
- 5 高齢化・人口減少の中で、新たな着想と熱いコーディネート力で、農村再生・いきいきした地域づくりを担っていける人材



取得可能な資格（予定）

- HACCP管理者 ● フードスペシャリスト
- 食の6次産業化プロデューサー ● 食品衛生管理者（任用資格）
- 危険物取扱者 ● 食品衛生監視員（任用資格）
- 測量士補 ● 教員免許（高一種免 農業） 等

想定される主な就職先

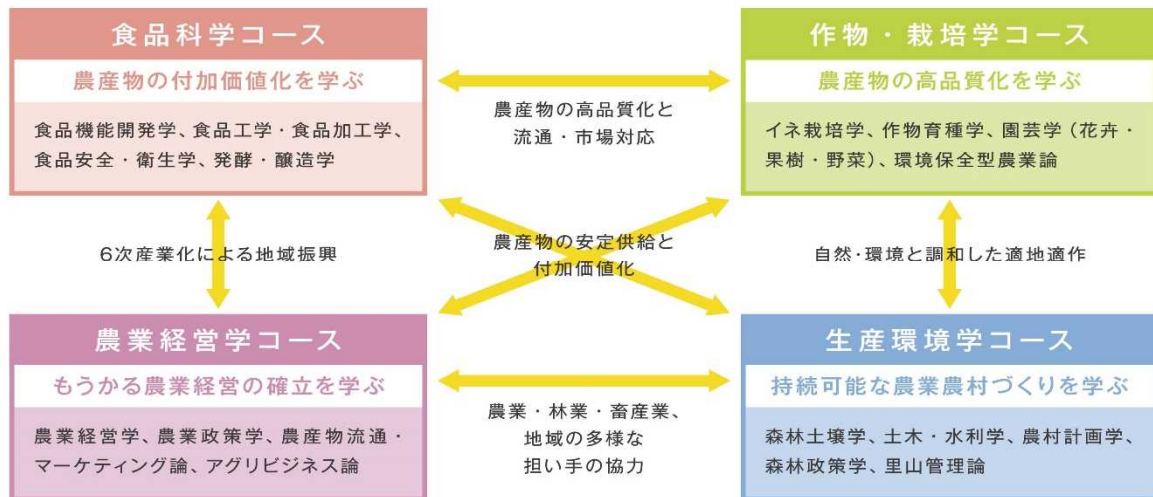
- 食品関連企業 ● 農業生産法人 ● 農林水産技術職（県市町村職員、JA等）
- 農業高校教員 ● 農業・農村起業家 ● バイオマス関連企業
- 医薬品メーカー ● 試験研究機関 ● IT・エレクトロニクス産業
- 地域おこし協力隊 ● 復興支援員 等

食農学類の教育の特徴

「農学専門教育」と「農学実践型教育」の二つの柱からなる「新たな農学教育」により、実践的農学を身につけ、国際化時代の食と農の課題に対して主体的・創造的に取り組んでいく地域リーダーを育成します。

特徴 ① 食と農をつなぐ！「農学専門教育」

タテ割りではなく、有機的に結び付いた「4つの専門コース」で
総員38名程度の教員が密に連携した教育を行うことにより、確かな専門性と学際的な思考力を養います。



特徴 ② 福島県全域がキャンパス！「農学実践型教育」

福島県全域を教育のフィールドとして、地方自治体・農業関係機関と密接に連携しながら、地域が抱えている課題の解決をめざす5~10のプロジェクトを設置し、教員総員で運営します。プロジェクトの中で、学生は地域に通い、課題の発見から解決策の提案までを経験し、専門知識を応用する実践力を身につけます。（金曜午後3・4限+夏期集中）

地域課題・キーワードの例

- 6次産業化
ワイン・日本酒、発酵食品（納豆・味噌等）、
機能的食品、医福食農連携
- 福島ブランドの復興
県特産品のブランディング（米・畜産・園芸）、
風評払拭、地産地消マルシェ
- 先端農業の推進
スマート農業とICT活用、農産物認証、
“もうかる農業”の事業モデル構築
- 地域再生
里山再生、循環型農業、菜の花で地域
づくり、バイオマス活用と地方創生



4コースの学生 4コースの教員

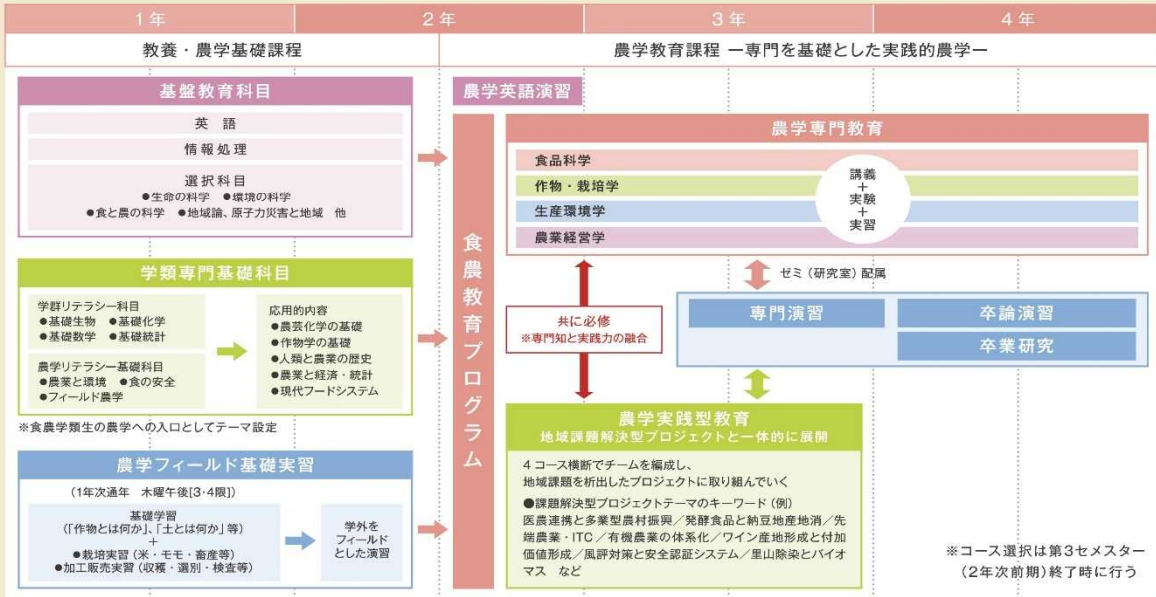
地域の皆様

地域の課題に挑む

■ 新学類の概要(予定) ※内容は予定のものであり変更する場合があります。

[学類名称]食農学類(仮称) [開設予定]平成31年4月(1年次) [入学定員]100名(収容定員400名)程度
 [専門コース]食品科学コース、作物・栽培学コース、生産環境学コース、農業経営学コース [学位名称]学士(農学)

◎食農学類カリキュラム体系イメージ



◎主な専門教育科目 ※科目名は予定のものであり変更する場合があります。

食品科学コース	食品機能学Ⅰ・Ⅱ、食品分析学、食品素材科学、食品加工学Ⅰ・Ⅱ、食品保蔵学、発酵・醸造学Ⅰ・Ⅱ、食品安全学
作物・栽培学コース	作物育種学、稲作学、環境保全型農業論、蔬菜(そさい)・花き園芸学、果樹園芸学、応用昆虫学、植物病理学、土壌科学、植物栄養学、飼料資源学
生産環境学コース	水資源利用学、治山砂防学、里山管理論、農村計画学、育林学、森林科学、森林保護学、農業リモートセンシング、スマート農業論、農業バイオマス利用論
農業経営学コース	農業経営学、農業経営情報論、食品マーケティング論、フードシステム論、農村社会学、協同組合論、農業政策学、農林資源経済論

■ 福島大学学生納付金(予定額)

農学群食農学類 [入学料] 282,000円 [授業料(年額)] 535,800円

■ 農学群食農学類の近隣類似学部

大学名	学部	大学名	学部
岩手大学	農学部	宇都宮大学	農学部
東北大学	農学部	新潟大学	農学部
山形大学	農学部	宮城大学	食産業学群
茨城大学	農学部	秋田県立大学	生物資源科学部



大学へのアクセス
 福島まで/東京から: 東北新幹線 約1時間30分
 仙台から: 東北新幹線 約30分
 山形から: 山形新幹線 約1時間
 大学まで/JR: 東北本線金谷川下車徒歩10分
 バス: 福島駅から二本松方面行き 乗車、福島大学前下車徒歩10分

農学系教育研究組織設置準備事務局

〒960-1296 福島市金谷川1番地 <http://www.agri.fukushima-u.ac.jp/>
 電話: 024-548-8212 FAX: 024-548-3180
 E-mail: nogaku-j@adb.fukushima-u.ac.jp

▶食農学類(仮称)PR動画はコチラ!
<https://www.youtube.com/watch?v=tqGGxewNypg>

